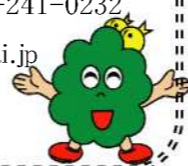


# 笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山  
熊本市中央区保田窪1丁目1-33 第2大田ビル1階  
第33号 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232  
平成27年10月 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp  
http://www.kyouninkai.jp/obiya /



## 新サロン誕生!

昨年度より発足した3校区合同の「地域支え合い“共同”体制づくり推進協議会」の話し合いの下、サロンの立ち上げが対応策の一つとして挙がりました。今年度、帯山校区でスタートした2ヶ所のサロンをご紹介します。1ヶ所目は『帯山2町内ほがらかサロン』です。このサロンは月1回、障害のある方々の就労継続支援事業所の談話室を借りて開かれ、初日は30名程の参加がありました。「気軽に来れるけんよかね♪」「サロンができてよかった!」など喜びの声がたくさん聞かれました。もう1ヶ所は『帯山5町内サロン』です(笑顔32号掲載)。このサロンは、誰もが気軽に集える場所が欲しいという思いからオープンしました。



### 託麻原校区

では、各町内の自治会長及び老人会長を対象に「将来の託麻原校区」についてアンケート調査を開始いたしました。

### 帯山校区

では、各町内で高齢者の集いが開催され「介護保険制度改正と2年後を見据えた地域での支え合い」について参加者ご自身の事として考える会となりました。

### 帯山西校区

では、昨年度に引き続き「高齢者とボランティア委員との交流会」が開催され、顔の見える関係をさらに深める会となりました。

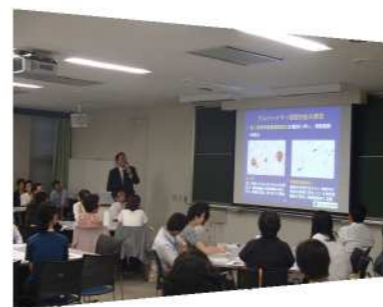
### ちょこっとNEWS!

8月に、熊本高等学校の1年生5名(男子2名・女子3名)が体験学習に来てくれました。高校生が体験学習に来るのは初で「地域を知った上で将来の夢や政策等に関わって欲しい」という家庭科の先生の思いから実現となりました。男子学生は「託麻原校区14町内サロン」と個別訪問に参加。サロンでは『脳トレーニング』を担当し、初参加にも関わらず素晴らしいプレゼンテーションでした。また、女子学生は「帯山2町内・ほがらかサロン」に参加しました。最初は緊張していた様子の彼女達も、最後には笑顔で話を交わしていました。



## 平成27年度 第1回 認知症事例検討会

7月27日、熊本学園大学14号館にて開催。始めにくまもと清明病院 精神科部長 兼田先生より「アルツハイマー型認知症について」をテーマとした認知症レクチャーがありました。認知症についての基礎的な知識・対応方法などについて大変分かりやすくお話しして頂きました。次に、熊本学園大学の黒木先生の司会進行のもと、居宅介護支援事業所ファイブ 浦田氏より「要介護4の妻との2人暮らし、主介護者の夫の認知症が進行して」の事例を発表して頂きました。通常の事例検討会では、各専門職や地域住民が、事例に対して私達は何かができるのか、どう対応するべきか、といった“対応”について話し合うことが多かったのですが、今回は、私達が提案・提供している方向性やサービスは“本人の意思を尊重”できているかといった視点で話し合いました。専門職としては、安全面の保障もできず在宅生活が難しいと判断。しかし本人夫婦は「家で暮らしたい」。この希望をどのように考え、対応していけばいいのか、専門職の職業倫理や価値観は“管理”してしまうことに繋がっているのではないかと、本人たちの意思選択の自由と安全のどちらを優先すべきかなど、価値観について様々な考えを話し合っていました。私たちが今支援している方々への対応についてだけでなく、本人の思いやそれぞれの価値観、自由、倫理について、改めて考えさせて頂く良い機会になりました。



### 在宅医療と介護の連携

7月6日、フォレスト熊本5階にて「在宅医療と介護の連携についての意見交換会」を開催致しました。構成メンバーは圏域内の中核病院のソーシャルワーカー、訪問看護師、主任ケアマネ、地域リハビリテーション広域支援センター、ささえりあ帯山です。自宅や住み慣れた地域で、医療と介護のサービスを利用しながら安心して生活ができる環境づくりをするためにはどうすればいいのか。在宅での療養や看取り、円滑な退院支援を実現させるために私たち専門職がどのように連携・協働をすべきか、またどのようなサービス(インフォーマルサービスも含め)が今後必要になるのか等、それぞれの専門性を活かした意見交換会でした。



今年の夏は全国各地で猛暑が続いておりましたが、最近では朝夕涼しくなり、ずいぶん過ごしやすくなりました。しかし、急な気温の変化に体調を崩してしまう恐れがありますので、皆様お気を付け下さい。さて、私事になりますが、フォレスト熊本に入所しまして今年で十年目。さらに認知症関係の職種に就いて六年です。とても働きやすい職場なので、大きなトラブルもなく続けることが出来ました。しかしながら、私自身まだまだ力不足で日々勉強の毎日です。これからも地域の皆様のために何かのお役に立てるように自己研鑽に励んでいきますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

牛島 太一郎

★編集後記★



## 帯山7町内どんぐり茶会

澄み渡った青空の下、どんぐり公園の緑に囲まれた公民館で『帯山7町内どんぐり茶会』が開催されました。このサロンは毎月1日、婦人会主催で開催されており、地域の高齢者から子供まで誰でも立ち寄れる居場所となっています。各家庭で手作りされた料理を持ち寄り、珈琲を頂きながら笑い声の絶えない時間がそこにはあり、「地域や年齢に関係なく気軽に立ち寄ってもらえたらいいですね」と、話される婦人会の皆さんの笑顔がとても素敵でした。



玄関の手書きの看板が心まで温かくしてくれました。

## 託麻原4町内サロン

7月7日の七夕に、愛光幼稚園にて託麻原4町内サロンが行われました。地域の方や民生委員さんなど16名の参加があり、園児と一緒に『七夕のつどい』を楽しみました。初めにパネルシアターや、園児たちによる七夕の歌や演奏、けんぱんハーモニカとハンドベルの演奏があり、次に、年長の子供達がふれあい遊びとして歌に合わせて参加者の肩をたたき、ぎゅ〜とハグ♪見ているだけでも癒される光景でした。最後は脳トレと昼食会。心もお腹も満たされた時間でした。



帰りに大きな笹の葉に、短冊を結んで帰りました。

## 認知症キッズサポーター養成講座 in 帯山小学校

9月29日(火)に帯山小学校4年生約130名の子ども達に認知症についての講座を開催しました。今回は音楽室で行いましたが、子ども達との距離が近く一体感があり、とても楽しく賑やかでした。『認知症は治らないの?若い人でも認知症になるの?』等の質問があったり、『孫を心配して何度も宿題の事を聞いてくるおばあちゃんに対し、自分だったらなんと声かけをするか』というロールプレイでは、多くの子ども達が手を挙げ「宿題は終わったよ。心配してくれてありがとう」等、発表してくれました。



## 高齢者の擬似体験授業!

9月15日の5・6時限目に、託麻原小学校4年生・108名を対象に高齢者擬似体験授業が行われました。圏域の事業所さんや、福祉用具の事業所さん等の協力・参加もあり、2時間の授業で子ども達に車椅子体験と高齢者の擬似体験を実施しました。子ども達の様々な質問や取り組む姿をみて、困っている高齢者の方に対して気軽にお手伝い出来る心が芽生えたのではないかと思います。



# 校区の取組み紹介!

8月8日(土)、帯山中学校現PTAとOB・OGの方々に組織する“OBICHU 汗美道はぐくみ隊”と帯山中学校の先生方の主催のもと「災害時炊出し訓練」が開催されました。この訓練は、大規模地震が起きた際に、避難所で炊出しを行うことを想定したもので、防災意識の向上と帯山中学校生徒や先生方、そして校区地域の方との連携を図る地域力の向上を目指したものです。前半は地域の方々のサポートを受けて調理室で炊き込みご飯や浅漬けの調理や試食が行われました。後半は熊本市消防局の消防士さんによるAEDと心臓マッサージの方法と地域リハビリテーション広域支援センターからの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士による車いすの操作方法と災害時の歯磨き方法について学んでいました。中学生の一生懸命な、しかし少し不器用(笑)な姿に逞しさを感じました。

## 「帯山中学校災害時炊出し訓練」初開催!



## 帯山西校区 高齢者とボランティア委員との交流会!

七月九日・十日の両日に、帯山西コミセンと東水前寺公民館にて交流会が開催されました。校区社協や民生委員さん、熊本市社協、区役所保健こども課、地域リハビリテーション広域支援センター、ささえりあ帯山など多くの参加がありました。地域の高齢者の方とボランティア委員さんとの交流を図ることで、日常生活において困った時に気軽に相談できるような、顔の見える関係づくりが目的です。会の内容は、皆さんで健康体操をしたり、ささえりあ帯山スタッフによる介護保険の改正等を踏まえた講話や、地域リハビリテーション広域支援センター職員による脳トレを交えたレクリエーション、最後に会話も弾み、大変楽しい交流会になりました♪



※帯山西校区ではほかにも地域で様々な活動(グランドゴルフ、太極拳カラオケ、絵ハガキ、健康マージャン、踊り、吹き矢、お茶べり会、いきいきサロン、ちょこボラ等)が展開されています。皆さんも一歩外に出て、地域の方との交流を増やしてみたいはいかがでしょうか♪